

令和 4 年 5 月 30 日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K13074

研究課題名（和文）松崎慊堂の漢籍享受と漢籍出版に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Acceptance and the Publication of Chinese Books by Matsuzaki Kodo

研究代表者

富 嘉吟 (FU, Jiayin)

お茶の水女子大学・基幹研究院・助教

研究者番号：00802696

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、江戸時代後期に活躍している儒者・文人である松崎慊堂が、どのように漢籍を享受し、どのように漢籍の出版に携わったことについて、基礎的な資料を蒐集・整理した上で、いくつかの事例を踏まえて検討した。

基礎資料の整理として、慊堂の日記・文集の書名・人名索引を作成し、慊堂がなんの漢籍に特に注意を配ったのか、特定の漢籍への関心がどのように変遷してきたのかなど、その漢籍享受・漢籍出版の全貌が一目瞭然になった。また、『陶淵明文集』『海録碎事』を事例として、その出版に関わる人物や、作業の具体的な様子を明らかにし、近世の漢籍出版史における慊堂の貢献を評価した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

漢籍の享受・出版に関する研究が、従来日本漢文学の研究において注目を集めている分野であるが、主に中国から日本へという単方向の流れで検討されており、漢字文化圏の一員である日本の影響力が過小評価される恐れがある。

本研究によって、慊堂が出版した漢籍は清国の学界にも新風を吹き込み、清末の新たな研究傾向との連動性が見受けられる。近世以降の漢字文化圏は、従来の単方向から双方向流動という新たな傾向が現れたことは、漢字文化圏の変遷、さらに近代以降の日中関係を理解する一側面になっている。

研究成果の概要（英文）： This study examines how Matsuzaki Kodo, a Confucian scholar and writer active in the late Edo period, enjoyed Chinese Books and how he was involved in their publication, based on several case studies after collecting and organizing basic materials.

As part of the organization of basic materials, an index of names of books and people in Kodo's diaries and anthologies was compiled to provide a fuller picture of his enjoyment of Chinese Books and their publication, including what Chinese Books he paid particular attention to and how his interest in particular Chinese Books changed over the years.

In addition, using "Taoyuanming Wenji" and "Hailusuishi" as examples, we have clarified the people involved in their publication and the specifics of their work, and evaluated the contribution of Kodo to the history of Chinese Books publishing in the early modern period.

研究分野：中国古典文学

キーワード：和漢比較文学 漢籍 出版史

1. 研究開始当初の背景

松崎慊堂は江戸後期の儒者・文人であり、生涯を通じて漢籍を愛読し、文集や日記において自分の読書生活を余すところなく記載している。これらの資料は慊堂個人の読書興味のみならず、江戸後期の漢籍享受の実態と変遷を記す貴重なものである。しかし、慊堂の漢籍享受に関する研究はほとんど行われておらず、江戸漢学史・江戸漢文学史におけるその意義が十分に解明されていない。

また、出版文化の開花期に生きていた慊堂は、自ら漢籍の出版にも進出し、『三謝詩』『海録碎事』『尚書正義』などの和刻本漢籍の校勘・刊行に積極的に関与していた。慊堂の漢籍出版について、いくつかの先行研究があるが、主に『縮刻唐石経』などの経学書に集中しており、その意義を全面的に認識したとは言い難い。

そこで本研究では、「松崎慊堂の漢籍享受と漢籍出版」を主題として設定し、江戸漢文学史・近世出版史などの多様な視点からこの問題を取り組む。

2. 研究の目的

本研究では、松崎慊堂の漢籍享受と漢籍出版との様子を解明するため、以下の三点を研究目的とする。

(1) 松崎慊堂の漢籍享受・漢籍出版の概観を解明する 本研究では、『慊堂全集』『慊堂日暦』及びほかの未収資料を蒐集・整理することで、関連する資料の全貌を把握する。それを踏まえて、統計的手法を用いて慊堂の漢籍享受・漢籍出版の概観を解明する。

(2) 松崎慊堂の漢籍享受に関する研究 慊堂の学識は該博であり、その漢籍享受も経史子集の四部にわたっている。本研究では、慊堂の日常の漢籍享受の様子を明らかにし、江戸漢学史・江戸漢文学史などの視点からその意義を検討する。

(3) 松崎慊堂の漢籍出版に関する研究 慊堂は『三謝詩』『海録碎事』などの刊行や、『佚存叢書』・藩版『尚書正義』の出版などに積極的に関与し、生涯にわたって漢籍出版に情熱を注いだ。本研究では、慊堂が関与した刊行物の具体的な事情を明らかにし、江戸漢文学史・日中交流史などの視点からその意義を検討する。

3. 研究の方法

(1) 松崎慊堂の漢籍享受・漢籍出版の概観を解明する

今まで刊行されている慊堂の著作は、『慊堂全集』『慊堂日暦』の二種であり、中には漢籍に言及した内容が至る所にある。本研究では、それらの資料の中の漢籍に関わる内容を整理し、「慊堂関連資料における漢籍索引」を作成した。これによって、慊堂が言及する漢籍は四部分類にどのように分布しているかが明らかになり、慊堂の漢籍享受・漢籍出版の概観も把握できるようになった。

さらに、資料における各漢籍の言及総頻度と年代別の言及頻度を統計し、「慊堂関連資料における漢籍頻度表」を作成した。これによって、慊堂がなんの漢籍に特に注意を配ったのか、特定の漢籍への関心がどのように変遷してきたのかなど、その漢籍享受・漢籍出版の全貌が一目瞭然になった。

(2) 松崎慊堂の漢籍享受に関する研究

(1)で蒐集される資料の中から、『陶淵明文集』などの重要な漢籍や、漢籍の宋元時代の貴重本を事例として、慊堂が当該書入手するためにどれほど苦労したのか、当該書についてどのような評価を与えたのかなど、日頃の漢籍享受の具体的な様子を整理してその成立背景と特徴を明らかにした。

また、慊堂の漢籍享受は個人興味の範囲を越え、当時の学界・文壇とも深く関わっている。特に昌平黌に入ってから広く人脈を作り、狩谷掖斎などの学者や館機・巻大任などの漢詩人とよく交遊し、その漢籍享受も彼らと互いに刺激し合うと考えられる。『玉燭宝典』を事例として、当時の江戸学界・江戸文壇の人物関係ネットワークを手がかりにして、慊堂の漢籍享受の成立背景と影響を検討した。

(3) 松崎慊堂の漢籍出版に関する研究

(1)で蒐集される資料の中には、慊堂が唐本・写本・碑拓を入手したことや、万笈閣などの有名な版元とやり取りしたことが記されており、慊堂が漢籍出版にいかなる心血を注いだことを示している。本研究では、慊堂が出版した『陶淵明文集』『海録碎事』などの漢籍を事例として、その成立背景や関連人物・流传状況などを明らかにし、江戸漢文学史・日中交流史などの視点からその意義を検討した。

4. 研究成果

本研究は以上の方法を用い、江戸時代後期に活躍している儒者・文人である松崎慊堂が、どの

ように漢籍を享受し、どのように漢籍の出版に携わったことについて、基礎的な資料を蒐集・整理した上で、いくつかの事例を踏まえて検討した。

基礎資料の整理として、慊堂の日記・文集の書名・人名索引や、漢籍言及の頻度表を作成した。また、『玉燭宝典』などを事例として、慊堂がどのように周辺の漢学者たちと漢籍の貴重本を蒐集したり、情報共有したりすることを解明し、書誌学史における慊堂の業績を述べた。なお、『陶淵明文集』などを事例として、慊堂の漢籍出版に関わる人物や、作業の具体的な様子を明らかにし、近世の漢籍出版史における慊堂の貢献を評価した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 富嘉吟	4. 巻 72
2. 論文標題 松崎謙堂の陶淵明受容について：石経山房本『陶淵明文集』の刊行を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本中国学会報	6. 最初と最後の頁 218-231
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富嘉吟	4. 巻 16
2. 論文標題 重論『古逸叢書』本『玉燭寶典』之底本	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 敦煌写本研究年報	6. 最初と最後の頁 113-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/Dunhuangnianbao_16_113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富嘉吟	4. 巻 18
2. 論文標題 松崎謙堂が見た宋元刊本について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 富嘉吟	
2. 発表標題 松崎謙堂が見た宋元刊本について	
3. 学会等名 白川静記念東洋文字文化研究所第二研究プロジェクト「日中韓漢籍研究」及び科研費「朝鮮渡り唐本の総合的研究」2020年度研究成果報告会	
4. 発表年 2021年	

1. 発表者名 富嘉吟
2. 発表標題 江戸時代における『玉燭宝典』の流伝：兼ねて楊守敬と森立之との交遊に及ぶ
3. 学会等名 白川静記念東洋文字文化研究所第二研究プロジェクト「日中韓文人交流研究会」
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関